平成１５年度対策技術分野登録課題＜石油＆ガス＞

No.	担当省	課題名	課題概要	実施期間	予算事業計画概要	予算計上省／実施機関	プログラムとの対応	備考
1	経産省	石油燃料次世代環境対策技術開発	（１）要求を行う施策・事業の概要 ・将来のゼロエミッションを目指した自動車技術に対応する燃料品質及びそれらに対応する基盤技術等に関する研究開発を行うとともに、当該燃料品質を有する石油燃料の製造技術の開発を行う。	補助金 直接交付先：財団法人石油産業活性化センター 交付先件数(一件当たり単価）：１件(程度) 補助率：２/３ 終期：平成１８年度	都市部を中心に自動車等からの排出ガスによる大気汚染は依然として厳しい状況にあり、特に窒素酸化物、粒子状物質の更なる排出低減をいかに図るかが重要な課題。 また、排出ガス中に含まれる二酸化炭素等は、世界的に問題となっている地球温暖化の主要因と考えられており、その排出抑制を同時に図ることが不可欠。 このような課題を解決するため、本事業では、将来のゼロエミッションを目指した自動車技術に対応する燃料品質及びそれに対応する基盤技術等に関する研究を行い,さらに、その燃料品質を有する石油燃料製造のための技術開発を通じて、将来の低環境負荷型石油燃料の低廉かつ安定的な供給技術の確立を行う。	経済省／財団法人石油産業活性化センター	A-e:対策技術	
2	経産省	天然ガスパイプライン安全基準整備調査委託費	(1)要求を行う施策・事業の概要 ・超高圧天然ガスパイプライン用高強度大径鋼管の特性を各方面から評価し、我が国への適用の検討に資する技術基準策定のための調査を行う。 これを基に策定される技術基準によるパイプラインの実際の敷設に当たっての審査体制の確立等に資する調査を行う。 併せてパイプラインに係る規制基準の性能規定化に当たって、鉱山に特有な検討項目、技術的課題等について調査、整理し、鉱山保安規則のパイプラインに係る保安規制条項の性能規定化の検討に資する。 (2)従来施策・事業との違い ・我が国における天然ガスの需要拡大を考える上で、高強度大径鋼管の導入は必要不可欠。導入に先駆けて必要性の増す事業である。 (3)施策・事業の効果(目標とする成果) ・我が国のパイプラインの安全性、経済性の向上を図り、エネルギーの安定供給確保に貢献。 ・安全性の実証がなされることにより、保安規制の確立に寄与。 ・政府の規制改革推進計画に従い、パイプラインに係る鉱山保安法規の性能規定化を推進。	平成１４年度～平成１５年度 委託費 直接交付先：（財）エンジニアリング振興協会 間接交付先： 終期：平成15年度	始期は平成14年度。 （財）エンジニアリング振興協会への委託事業。協会内に学識経験者等からなる調査委員会を設置し、調査の詳細な仕様等について検討。委員会の検討に基づき、協会自ら調査を実施。	経済省／	A-e:対策技術	